

団体ヒアリング調査結果の要点

平成 24 年 2 月
長 岡 京 市

目 次

1. 調査概要	1
2. 調査結果の概要	3

1. 調査概要

(1) 調査の目的

環境関連の活動を行う団体の取り組みの実態や意向についてアンケート調査を実施したが、これを踏まえた上で、団体間や行政との連携のあり方、市民活動を中間的に支援する仕組みのあり方、行政による支援策などについて、対話を通じた意向把握を行うために実施した。

(2) 調査の対象

- ・ アンケート調査回答団体のうち、調査協力に応諾頂いた団体。
- ・ 本市“環境の都づくり”の今後の展開上、聞き合わせが必要と考えた団体。

日時		対象団体	出席	場所
1/14 (土)	14 時～	長岡京市環境の都づくり会議	3 名	市役所 会議室 7
	15 時半～	①下海印寺まちづくり協議会	3 名	
		②乙訓の自然を守る会	1 名	
		③長岡京市生活会議	2 名	
1/20 (金)	10 時～	①長岡第四小学校区地域コミュニティ協議会	2 名	市役所 図書室
		②NPO法人竹の学校	2 名	
		③長岡京市生活学校	1 名	
		④里山再生市民フォーラム	1 名	
1/27 (金)	10 時～	①長岡京市廃棄物減量等推進員会議	1 名	市役所 図書室
		②滝ノ町自治会	1 名	
	13 時～	①おとなりさん互助会	2 名	
		②長岡第七小学校区地域コミュニティ協議会	1 名	
		③竹援会	1 名	
		④長岡京市女性の会	1 名	
1/16 (月)		おとくにパオ	1 名	(電話)
出席者数合計			23 名	

（３）調査の方法

- ・ いくつかの団体の参加によるグループ・インタビュー形式を基本として実施した。
- ・ なお、日程等の都合により、「環境の都づくり会議」について単独での、また、「おとくにパオ」は電話での聞き合わせとした。

（４）調査の内容

- ・ アンケート調査結果の概要報告。
- ・ 団体活動における現状と課題についての確認。
- ・ 各団体のアンケート調査への回答のうち、特記的内容についての確認。
- ・ 「長岡京市環境基本計画」に基づく取組について、団体として寄与してきたこと、今後の推進に向けて寄与できることについての確認。
- ・ 長岡京市の市民環境づくり活動を中間的に支援する仕組みのあり方についての考え。

等

2. 調査結果の概要

ヒアリングにおいて出された意見等の主要内容について、以下に整理した。

会員が高齢化。後継人材の確保に苦慮！

多くの団体で、会員の高齢化と後継人材不足が課題として挙げられた。親子などを対象として活動することで若い人材の参加を期待する声、また、定年退職者の参加に期待する声があった。

(個別の内容)

- 会員 35 名の大半が 60 歳以上で、70 歳までは活動できるとして、あと何年かしたら会員がいなくなってしまうという状況の中、定期的に会員が増える仕組みが必要。
- 会員は一人だけ 45 歳で、あとはほとんど 60 歳を超えている。
- 高齢者でもある一定の時期入ってきてローテーションを組んでいけたら良い。
- 若い人に入ってほしいが、みんな仕事をしている。特に正社員の方はなかなか難しいので、市役所を退職した人を狙っている。60 代ぐらいで退職された方はまだ若いので。

活動情報の受発信について、公的な支援機能の強化を！

環境づくりに係る市民活動の情報を、広く市民に発信することの重要性が挙げられ、行政など公共公益的な情報発信機能を強化すべきことの指摘があった。また、インターネット以外の情報提供方法の充実を図るべきとの声もあった。

(個別の内容)

- 各団体が情報を個々に発信するのではなく、ひとつに集めて 1 か所から発信してくれるとよい。市から市民向けに発信するための輪があるとよい。
- 活動において、どこに話しを持っていくかという点、行政が主になるので、行政から情報発信していただくのがよい。
- 各団体が自発的に情報を発信することは困難なので、行政が音頭をとって情報をスムーズに流す仕組みづくりをしてほしい。
- ホームページは作っているが、若い人はよいが年配の方は情報活用が難しい。竹林や森林に行かれるのは年配の方が多く、本来、情報を求めている人が情報入手できない。そうするとクチコミでしかやりようがない。
- インターネットは検索しないが広報誌なら必ず目を通すという人も多い。皆さんの活動内容を逐次掲載し、定年の方などの人材の誘い込みやきっかけにならないか。

経済的支援から経営的支援へ！

活動資金の不足についての問題は様々にあるが、単なる補助ではなく、継続的な経営運営を行える仕組みづくりが必要であるとの意見があった。

(個別の内容)

- 資金源が非常に少ないので企業の協力があれば。お金ではなくモノでも良い、土日だけ車を貸してくれるとか。費用を懸けずに空いているものを利用できるとよい。
- 地域の中でも、無償ボランティアではなく、ちょっとでも有償にしないと責任持ってやらないとの指摘もあるが、補助金も限られているので謝金等はなかなか難しい。
- 長岡の竹林を維持しようとするなら整備が必要だが、ボランティアの力のみではダメ。竹が産業資材と用いられ、事業として成り立つ必要がある。
- タケノコ販売が資金源。売り先は身内である。去年一昨年と農協の事故があってしばらく休んでいたのが、今年再開してくれてだいぶ助かった。

地域人材を見つけて生かす工夫を！

地域人材を見つけて、市民活動における多様なニーズや行政ニーズへとつなぐための仕組みを求める声があった。

(個別の内容)

- 環境づくりに限らず、長岡京市には優秀な人材がたくさんいる。そういう人を発掘してボランティア活動などに引っ張り込むのが行政の力。
- 環境学習の講師など、市のホームページ上に人材リストがあったり、私たちもリストに載せてもらえたりできたらよい。ニーズにあったタイミングにも応じた人材と連携した活動ができるのでは。市内にはいろんな市民の方がいるが情報が入ってこない。

市民活動の中間支援の体制強化を！

上記 4 点を踏まえながら、本市において、市民活動を中間的に支援する体制をいっそう強化していくことが必要であるとの声があった。

(個別の内容)

- 昨年は 39 団体が参加する「長岡京竹遊び」を実施した。長岡は環境団体が多い中で、事務局の担い手として期待される。
- 「竹遊び」は核になる人が必要。一年で打ち上げてしまうのなら誰がなっても一緒。細くても長く持続していくことが一番大切。
- 竹林整備はひとつのグループだけではしんどい。市が旗振って各グループから 30 人ずつ出すなど、伐採とゴミ掃除だけでも何かきっかけを作らないと。
- 中間的なところから支援がほしい団体は多い。
- 市民活動サポートセンターには 110 団体が登録している。市民活動を活性化させるために先頭でけん引してほしい。